◇展示

○平成二六年五月一二日～六月六日

春季展示「屏風と書画から歴史を読む―琉球貿易図屏風を中心に―」

○平成二六年一〇月一四日～一一月七日

企画展・総合研究棟〈士魂商才館〉開館記念

「伊藤忠兵衛家・長兵衛家同族事業経営の沿革

～地商いから商社へ　その2～」

（市場史研究会・科研基盤研究（B）「伊藤忠兵衛家同族による事業経営の研究」グループとの共催）

企画展関連講演会（平成二六年一〇月二五日）

・「両伊藤家伝来史料にみる事業経営の歴史」　宇佐美英機

・「農産物総合物流戦略」

丸紅（株）農産ユニットディレクター・農産部長　近藤孔明氏

・「大型量販店物流システムの一例―物流の仕組みと課題―」

（株）スーパーレックス　取締役副社長　松林彰次郎氏

◇開催の記録

今年度の春季展示は、二年おきに学内公開をしている「琉球貿易図屏風」を中心に、「中井良祐翁寿屏風」「金持商人一枚起請文」「湖水浦廻り名所・寺社便覧図蹟」と、館蔵史料の中でも特に人気の高い史資料を出陳した。特に「琉球貿易図屏風」については、屏風に描かれた場所（首里城・三重城・御物城など）の現在の姿を撮影した一〇枚の写真パネルと、それら場所の現在地を記した那覇～首里周辺地図パネルをあわせて掲示した。これは、「琉球貿易図屏風」に描かれた琉球国の時代の風景と、現在それらが置かれる状況を具体的に比較してみることを通じて、沖縄の歴史や文化について考えるきっかけを新入生はじめ観覧者に提供する試みであった。

また昨年度の春季展示では、大学入門セミナーの開講スケジュールにあわせて会期を五月半ばから六月半ばまでに変更したところ、会期が梅雨と重なり展示室内の環境が懸念されたため、次回以降の検討課題としていた。特に今年度は「琉球貿易図屏風」をはじめ、繊細な管理が必要な史資料を展示することになったので、日程を慎重に検討し、本格的な入梅の前である六月初旬に会期を終了させることとした。実際には会期の最終週に入梅したものの、展示室の環境は会期を通じて安定しており、展示撤収も晴天の日に行ったので、史資料への梅雨による影響は避けることができた。

観覧者数は五九八人（学外二九三人・学内三〇五人）であり、前年度（五五七人）より四一人増加した。ただし学内観覧者は五九人減、とくに学生が五四人減であった。この点について、教養教育科目など履修者の多い授業での見学がなかったのは昨年と同様であった。大学入門セミナーでの見学は前年より増加したが、一見すると近江・滋賀と関係の薄そうなテーマであったためか、ゼミによる見学は減少した。

学外の一般観覧については、彦根西中学校の二年生全員が沖縄への修学旅行の事前学習として来館し、あわせて常設展示（近世の農具など）も見学するなど、史料館を社会科の授業に活用してもらった。展示テーマにもよるが、今後もこうした地元の学校による利用について

は、積極的に対応していきたい。

また会期外ではあるが、交通史学会の大会が五月一〇・一一日に彦根キャンパスで開催され、同会員も観覧に訪れていた。（青柳）

昨年、史料館と隣接する場所に総合研究棟〈士魂商才館〉が竣工し、史料館として長年の懸案であった史資料保管のための新書庫を同棟二階に確保することができた。そこで、秋季企画展は「総合研究棟〈士魂商才館〉開館記念　伊藤忠兵衛家・長兵衛家同族事業経営の沿革～地商いから商社へ　その2～」と題して開催することとした。内容的には、平成二〇年度企画展「地商いから商社へ—伊藤長兵衛家・忠兵衛家文書にみる—」の続編にあたる。

今回は、平成一五年夏に犬上郡豊郷町八目に所在する伊藤忠兵衛記念館敷地内の土蔵・物置から発見された史料群を、伊藤忠兵衛家のご高配を得て史料館に搬入し、翌年四月から整理・仮目録化作業を始め、昨年春の時点で約五万点の史料群であると確認できたことを契機に企画したものである。また、前回は出陳できなかった新出の史料や、さらに平成二二年に伊藤忠商事株式会社・丸紅株式会社よりお預かりした史資料についても紹介することができた。

観覧者数は五一九人（学外三八一人・学内一三八人）であり、前年度（五三八人）より減少した。学内では学生の見学が増加したが、教員・職員の見学は減少した。学外からは一般観覧者が増加し、とくに伊藤忠商事・丸紅の社員・OB・内定者・取引先などの関係者の方々が多く来館された。また、今年も学園祭に協力し、土日開館を行った。

講演会への来場者数（一〇二人）は、例年以上に多い数字であった。今回共催した市場史研究会の大会が講演会に合わせて彦根キャンパスで開催された（一〇月二五・二六日）ため、多くの会員に講演会へ参加してもらうことができた。また、丸紅（株）の食産部長と、伊藤忠商事OBで（株）スーパーレックス副社長にも関連講演を依頼したこともあり、一般の来聴者も多数に及び、受付が混雑し対応に手間取ってしまった。この点は今後の課題である。（宇佐美）

◇「菅浦文書」の再調査

昨年度に引き続き、史料館では二六年度科学研究費助成事業（基盤B・一般）「中・近世「菅浦文書」の総合的調査・公開と共同研究—中・近世村落像の再検討」（研究代表者・青柳周一）に基づいて、研究分担者（滋賀大学・滋賀県立大学・琵琶湖博物館の教員・学芸員）およびリサーチ・アシスタントと研究協力者（京都大学・滋賀県立大学の大学院生）と共に、重要文化財「菅浦文書」の再調査を行った。具体的には、「菅浦文書」中の史料一点ごとに、研究史上でどのように解読・解釈されているかを点検してデータ化し、そのデータを踏まえて刊本『菅浦文書』の翻刻文を原本と照合してチェックする作業を実施した（原本保護の観点から、実際の照合作業には主にデジタル画像を使用）。『菅浦文書』での人物・年代比定や史料名なども再検討した。

作業は研究会形式で六回行い、長浜市西浅井町菅浦での現地史料の調査と撮影を二回実施した。なお青柳は一一月二九日に、長浜市長浜城歴史博物館での企画展示「日本中世の村落社会～菅浦文書が語る民衆の歴史～」の関連講座において、本再調査の成果に基づいて、特別講座「菅浦文書研究の到達点」を行った。（青柳）

◇史料整理

三上家文書後発見分一五三四点

◇授業

教育学部博物館実習

今年度も青柳は八月二八・二九日の二日間、「博物館実習Ⅲ」を史料館において開講し、教育学部から一六人が受講した。実習では受講者に実際の学芸員の作業を体験させるため、史料館展示室の展示ケース内に史料を実際に配置する作業や、展示室内および展示資料・書庫の清掃作業、古文書への和紙ラベル貼付作業などを行った。

なお、教育学部改組による教育課程の変更及び学芸員資格認定廃止にともない、今年度で「博物館実習Ⅲ」の開講は終了となった。

（青柳）

◇発行

「SAMにゅうす」四〇号、四一号

『総合研究棟〈士魂商才館〉開館記念　伊藤忠兵衛家・長兵衛家同族事業経営の沿革～地商いから商社へ　その2～』（平成二六年度企画展図録）

◇学内雑誌掲載日本史論文

Working Paper No.207「病むあのひとたち、信ずるわたしたち―ハンセン病の療養所におけるキリスト教信仰をめぐるいくつかの論点―」阿部安成

Working Paper No.208「父母に抱かれた「聖者」のひと―国立療養所大島青松園在住者の顕彰―」阿部安成 石居人也

Working Paper No.211「あれからずっと、あれから、ずっと―国立療養所大島青松園在住者の顕彰碑をめぐるその後―」阿部安成 石居人也

Working Paper No.213「サミシイオモイ―〈話トリエ〉のなりたちにさかのぼって―」阿部安成

Working Paper No.214「旧制高等商業学校の歴史資料と高商史を考える―課題と可能性―」阿部安成

Working Paper No.217「〈シリーズ『藻汐草』を読む（2）〉継続する発信―国立療養所大島青松園関係史料の保存と公開と活用にむけて―」阿部安成

Working Paper No.218〈シリーズ『藻汐草』を読む（3）〉継続する発信―国立療養所大島青松園関係史料の保存と公開と活用にむけて―」阿部安成

Working Paper No.219「療養所の外へ、島の外へ―キリスト教霊交会創設者の墓前礼拝―」阿部安成

◇史料館職員

館長　宇佐美英機　　専任教員　青柳周一

兼任教員　金子孝吉　　学芸員　堀井靖枝　南田孝子

非常勤職員　溝口智子

◇運営委員

須永知彦　坂野鉄也　三ツ石郁夫　山田和代　渡邉凡夫